

# 浄心寺だより

発行  
浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081  
笠岡市笠岡2065  
電話(0865)62-2623  
FAX(0865)62-2595  
振替01260-9-13760  
<http://joshinji.suki-ari.net/>



親鸞聖人御誕生八五〇年  
立教開宗八〇〇年

## 慶讃法要参拝

(浄心寺・報恩寺)

「み法を味わって」(其)

らしさ

中学・高校生は大人から「らしくせよ」といつも言われるので反発して「らしき」という言葉がきらいだそうです。しかし大人も「親らしくせよ」、「年寄らしくせよ」と言われたらすなおに聞くでしょうか。それは「らしき」を、自分の考えや行動にワクをはめることだと考えるからでしょう。それなら「らしさ」とはワクではなく、あるべき姿、目標ではないでしょうか。

少なくとも、今の自分は何をすべきかがわからないのでは人生心細いことです。

それでは野球をやりながら自分の守備位置がわからないのと同じです。今の自分とあるべき自分、本当の人間らしさをこそ仏さまに聞かせていただきたいと思います。

鷹谷俊昭著『月ごとのことば』転載

ごあんない

### 宗祖降誕会

五月十三日(土) 十三時より

- ・ コール清風ミニコンサート
- ・ チャリティコンサート
- ・ 落語(笑福亭生喬師匠)
- ・ 門信徒総会(十一時より)

## 春季彼岸会 つとまる 永代経法要



三月十六日、十三時半より春季彼岸会、門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。一同で阿弥陀経をお勤めした後、ご法話を拝聴。今回は備後教区布教団の特別布教大会を兼ねており、三名の講師の方にご法話をいただきました。

備後教区の教務所長、岡寄秀恵師のご挨拶の後、世羅町の正満寺、島津恵航師のお話を拝聴。

「名号不思議の海水は逆謗の死骸もとどまらず、衆悪の万川帰しぬれば功德のうしほに一味なり」という和讃をご讃題にお話しいただきました。海は地球の表面積の七割を占めます。そして海水は海洋大循環という作用で世界中を何千年もかけて循環します。海水にはいろんな成分が溶けており、世界中で濃度は一定に保たれている

とのこと。阿弥陀仏の救いはこの海のように深いものであり、悪や煩惱も包み込まれていくのです。

次は、府中市の西方寺、亀山照枝師によるご法話。ご讃題は「生死の苦海ほとりなし。ひさしくしづめるわれらをば弥陀弘誓のふねのみぞ、のせてかならずわたしける」。わたしたちは生老病死に代表される様々な苦悩とともに生きていかなければなりません。それをそのまま救いたいというのが阿弥陀さまの願いであります。

最後に生江浜の蓮乗寺住職、田井智彦師のお話でした。「本願力に遇いぬれば、むなくすぐる人ぞなき。功德の宝海みちみちて煩惱の濁水へだてなし」。

最近五十代のお兄様が亡くなられ、「かわいそうに」というお悔やみの言葉があつたと。しかし私たちの教えでは、死は「かわいそう」なことではありません。阿弥陀さまの世界は幸せな世界であると同時に、「また会える世界」でもあります。この世で懸命に生きたのち、お浄土に生まれる。そしてお別れした人々ともまた会える。そんな素晴らしい世界を阿弥陀さまはご用意くださったのです。

布教団からも数名お参りされ、にぎやかな法座となりました。

### やさしい仏教講座

第19回 2月9日(まごめ)

#### 『本山慶讃法要参拝』

七具足という珍しいお荘厳での法要でした。ご門主の焼香の香りのすばらしさにも感動。

『本願寺新報』の門前町の表貝師、宇佐美直八さんのコラムでは、「新型コロナナ感染症でこれまで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないと思ひ知らされた」「価値観が変わるような出来事であった時、それを助けてくれるのはやはり、親鸞聖人が示してくださった教え」である、とありました。「教え」を抛り所に、しっかりと日々を生きたいものです。

#### 『ひのえうま』

二〇二六年はひのえうまですが、今回も出生数は減るのでしょうか？丙も午も火の性質があることから、ひのえうま生まれの女性は気性が激しく夫を早死にさせる、という迷信が生まれました。

しかしこれは友引に葬儀を出さないと同じく、根拠のない迷信です。いわれを信じる人こそ少ないものの、コロナ禍のように、ヨコの同調圧力から出産をためらう人が出てくる可能性があります。

かつての浄土真宗の教章にあつた「深く因果の道理をわきまえて、現

世祈禱やまじないを行わず、占いなどの迷信にたよらない」は、浄土真宗にとどまらず、仏教本来の考え方です。

#### 『本願海』

正信偈の「如来所以興出世」から「如衆水入海一味」までは「お釈迦さまがお生まれになったのは、ただ阿弥陀さまの海のように深い願いを説くためでした。迷い、悩みの世界に生きるわたしたちは、お釈迦さまの言葉に耳を傾けるべきです。ひとたびその教えを信じて喜ぶことができれば、煩惱にまみれた身であっても安らぎが得られます。平凡な人も立派な人も、悪い人も、みんな同じように救われることは、どんな水も最後は海に流れ込んで一つになるのと同じです」という意味であり、「海」は阿弥陀さまの願いの大きさや、お浄土の偉大さをたとえています。

#### 『他宗派の葬儀への参列』

当家はその宗教観で故人の死を受け止めますので、その宗教儀式を尊重すべきです。一方、参列者は自分の信仰で故人の死を受け容れていけばよいのです。

「形式は相手方に合わせ、内面は自らの信仰で」が大切です。

# 門信徒の広場

## 地区委員さん登場



吉浜南地区

北川 嗣雄 さん

眼鏡橋とカキツバタで有名な菅原神社周辺の吉浜南地区十戸を、平成三十年から担当されています。令和元年には備中里組の第七期



## 本山慶讃法要参拝



親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年慶讃法要に西本願寺に参拝しました。

四月十一日

早朝より浄心寺に集まり、報恩寺さんからの参拝者九名とともにバスに乗車、計二十三名で参拝しました。記念法話を聴いたのち十時から

連研を終了され、本山での中央教修を受けて門徒推進員となり、ご活躍されています。

八年前に奥さんを亡くされて以降、積極的にお寺参りをされています。一方で日々の家事と仕事に追われ、多忙な毎日を過ごされているとのことでした。

最近体調を崩され、各種行事に参加しにくくなった事が非常に残念だ、とのこと。

慶讃法要。新たな節の正信偈等の荘厳なおつとめが堂内に響きました。ご門主や裏方様、前門ご夫妻も列席されました。

その後近くの「京ごちそういしまる」にて、鯛茶漬け御膳をいただきました。デザートまで付くちよつと豪華な料理でした。

その後自由時間となり、書院や飛雲閣を拝観される方あり、門前町で買い物される方ありと、それぞれに楽しみました。

二時には帰途につき、六時に浄心寺に帰着しました。各地から多くの参拝者があり、法要の高揚感がいつまでも胸に残る良い一日となりました。

## 「島の花娘」

前門信徒会長である内海義郎さんが昭和四十七年に作られた詩に、大阪に住む弟の藤井修さんが令和四年に曲をつけ、歌になりました。

一 おはよう朝の段々畑

光の中で花を摘む

マーガレット カーネーション

あの娘のほほもバラ色に

露もキラリと薫るよう

ランランララ花娘

二 海も静かな瀬戸内に

カスリの姿もとけこんで

菊や椿やキンセンカ

坂道とおつと港まで

背負って行こう かあさんと

ランランララ花娘

ランランララ花娘

現在この歌は仏婦の「コール清風」で唱和しています。今度の降誕会でお披露目する予定です。

## 仏婦例会 3月12日

最初に仏婦二十周年記念式典のおつとめ(正信偈、音楽法要)の練習をしたのち、住職による「宗教は何のためにあるの?」というお話を聞きました。

## お盆参りの中止



前号でもお知らせした通り、前住職も高齢となり、お約束通りお参りできないことが増えてきました。また平日は留守のお宅も増えてきました。このような事情で、今年からは希望されるお宅だけにお盆参りし、それ以外の皆様にはお寺での「盂蘭盆会」にお参りいただくことにしました。

自宅へのお盆参りをご希望の方は、六月三十日までに浄心寺までお知らせください。日時を調整し、後日お参りの日程をお知らせします。お参りは八月上旬の予定です。

また盂蘭盆会は八月十四日の十時と十四時、十五日の十時と十四時に本堂でおつとめする予定です。いずれかにご参拝ください。

## 還浄(げんじょう) (敬称略)

大淵ヨシ子	2	26	90	鴨方町
辻川 潤	2	26	89	西本町
溝淵 律雄	3	1	76	旭が丘
稲美 一孝	3	3	89	生江浜
赤司 龍子	3	16	84	生江浜
森 康治	3	24	82	鴨方町
大田フジ子	3	28	97	鴨方町
藤井 英子	4	6	87	浜田
樋口ヒサエ	4	8	101	鴨方町

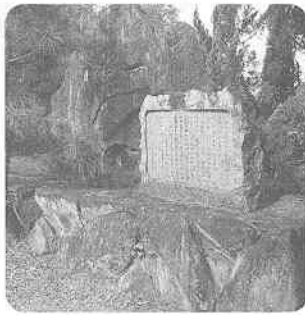
# 笠岡を歩く

## 歴史散歩(1)

### 長安圭一

今号から長安圭一さんによる連載「笠岡を歩く」を始めます。長安さんは当山の門徒推進員です。長年、観光ボランティアガイドもされており、笠岡の歴史について大変造詣が深い方です。数年前まで続いていた備中里組青年部会の子供ハイキングでも笠岡諸島などの案内をしていただきました。連載では笠岡の様々な場所の解説をしていただき、歴史散歩を楽しんでいただけます。

## 津田白印 顕彰碑(1)



古城山公園の中央部に小さい岩山がある。この山の裏側の木立ちの中に、巨大な自然石で造られた石碑が建っている。白印、津田明導の徳を讃える顕彰碑である。

正面に「一如 八十八翁白道人」と書かれている。これは白印本人の筆になるもので、一如とは真理は一つ、という意である。

裏面に「昭和五十五年六月吉日 建之 白印会発起人」とあり、内海一郎氏以下十一人の名が記されている。

碑の脇に略伝碑が置かれており、白印の略歴が書かれている。

「白印、津田明導先生は文久二年(一八六二)笠岡浄心寺に誕生、夙(つと)に九州で仏学漢学を専攻し、傍ら南画を修む。明治三十三年笠岡に甘露育児院を開設、以来二十五年、数百に及ぶ孤児の救済に心血を注ぐ。また大正十二年には私立淳和女学校を創立し、現在の淳和学園の基を築く。円満玉の如き人徳慈愛溢れる教育熱、神韻漂う独自の画風は斉しく人々の敬仰の的となる。惜しくも昭和二十一年(一九四六)静かに八十五年の生涯を閉す。昭和五十五年六月葉田笹舟書」

## サマースクール



7月21日(金)  
対象：小学生  
参加費：1,000円  
締切：7月14日

## 新しい合同墓 できました



浄心寺境内墓地にはこれまで門信徒の合同墓(永代供養墓)がありました。近年ここに改葬される方が急増したため、納骨のマスがいっぱいになりました。そこで新たに合同墓を境内墓地内に建立しました。本堂前の水くみ場入っ

## 宗祖降誕会

5月13日(土) 13時より

### ◆ コール清風ミニコンサート

浄心寺仏教婦人会のコーラス。日頃の練習の成果を発揮します。

### ◆ チャリティコンサート

ピアノや琴、ソプラノ歌手などプロの音楽家による演奏で、発展途上国の子供たちに楽器をプレゼントするためのチャリティです。

### ◆ 上方落語

今年には笑福亭生喬師匠です。本格的な上方落語を楽しみましょう。



てすぐのところにあります。

建立には大久保、上野タツ子さんの永代懇志を使わせていただきました。厚く御礼申し上げます。

正面には「俱会一処」の文字。「阿弥陀経」に出てくる言葉で、「また一つのところで会いましょう」という意味です。この世でお別れた方ともまた極楽浄土でお会いできる、という浄土真宗の教えを象徴する言葉です。

墓じまいや墓地の建立をためらわれている方は、どうぞご相談ください。

## 令和5年度 門信徒会費納入のおねがい

本年度会費納入をお願い申し上げます。納入につきましては、地区委員さんを通してか、地区委員のおられない地区の方はご参拝の折、あるいは同封の郵便振替でお願いいたします。

門信徒会費は年額2,000円として、それ以上の御懇志の方には金額を限定しておりません。(会計)

## 編集後記

新緑に風薫るよい季節を迎えました。みなさまお健やかに過ごしてください。

春季彼岸会・永代経法要等の報告、本山慶讃法要への参拝の報告、宗祖降誕会法要等をお知らせする第143号をお届けします。

「縁を慶び、お念仏とともに」  
(編集委員 釋賢大)